平成24年度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	技術を研き、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。

今年度の重点目標	１．確かな学力の育成 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と生徒の進路実現

年 度 当 初					評 価 結 果 （ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末のめざす姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	① 授業改革と学力の育成	○授業評価アンケートによる生徒の学習状況や理解度等の把握をもとに、授業改善を図っている。 ○基礎力診断テストは、生徒の意欲喚起につながり、2回目の診断テストでは、全体的な学力向上が見られた。今後は、生徒個々の到達度をさらに高めていく必要がある。 ○学習環境の改善が徹底できつつある。 ○各教科の公開授業での研究が、授業の改善に活かされている。	○わかりやすい授業を実践し、学力を定着させる。 ○全体的な成績向上を図り、生徒個々の到達度を高める。 ○より一層、学習環境を改善し、生徒の基本的な学習習慣を確立させる。 ○教科指導の研究を充実させ、より一層、授業を改善する。	○授業評価アンケート等の分析に基づき、教材研究をより充実させ、生徒の理解度や意欲を高めさせるため、わかりやすい授業の工夫を引き続き行う。 ○基礎力診断テスト等により客観的に生徒の実態を把握し、小テストや課題、個別指導等により下位層の減少を図る。 ○「５Ｓ」、「あさひ」の取り組みの定着や教室の美化の徹底を図る。また、授業開始・終了の挨拶を徹底し、生徒の授業に取り組む姿勢をより一層高めさせる。 ○各種研修会への積極的な参加や公開授業の参観及び研究会の充実を図る。			
	② 主体的な学習態度と実践力の育成	○個別面談指導、補習、各種模試、進路行事等を実施する中で、生徒に学習及び進路の目標を定めさせることができており、主体的な学習の習慣及び態度を育成できつつある。 ○自宅学習調査（考査前）の結果より、学習時間は全体的に増加傾向にあるが、一部には極端に少ない生徒がいる。 ○朝読書の定着により、図書館の貸出冊数が大幅に増加している。	○学習及び進路の目標を早期に確立させ、より一層、主体的な学習の習慣及び態度を育成する。 ○平時の自宅学習を習慣化させる。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するよう、引き続き「朝読書」を充実させる。	○各種進路行事等の取り組みを引き続き進めるとともに、新たに1年生で進路講座を実施する。また、生徒・保護者との面談をより綿密に実施する。 ○個々の生徒に定期考査や資格・検定試験の目標を設定させる。また、小テストや課題を日常的に課すなどして自宅学習を促す。 ○図書館だよりの発行や身近なテーマの資料展示等、本の紹介について、より一層の充実を図る。			
2 豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○日々の教科指導やLHRでの人権教育、性教育の講演会、アンケート調査等は、他者との関係を見つめ直すよい機会となっており、互いを尊重する態度の育成が図られている。 ○人権教育校外研修「1人1研修」の取り組みが十分ではない。	○生命の大切さや人権を尊重することの大切さを考えさせる。また、支援を要する生徒の把握等、個々の生徒の理解や望ましい集団づくりを充実させる。 ○教職員自らが研修等をとおして自己を振り返り、学ぶ姿勢をもち続ける。	○保育実習やシニア体験等を充実させる。 ○ハイパーQU調査の実施、活用プランの作成及び活用の徹底を図る。 ○いじめ等に関するアンケートを実施し、問題を早期に発見・対応するとともに、関係職員との連携を強化する。また、必要に応じて、専門機関との連携を図る。 ○校外の人権教育研修への参加呼びかけの工夫を図り、積極的に参加する意識を高める。			
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○「 5S 」、「 あさひ 」の取り組みが徐々に定着してきている。また、欠席、遅刻の生徒数が減少傾向にある。しかし、一部に基本的生活習慣が身についていない生徒がいる。 ○テクノボランティアへの参加生徒数が増加している。 ○部活動に熱心に取り組む生徒が多い。 ○交通マナーは改善されたが、自転車運転について、傘差し運転がまだ散見される。	○基本的生活習慣を確立させるとともに、協調性、責任感及び他者の話を聞くための適切な態度を育成する。 ○生徒の地域社会とつながりを深める機会を積極的に設け、他者を思いやり、尊重する心や態度を育成する。 ○部活動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組ませる。 ○交通安全のマナーを引き続き守らせ、安全に通学させる。	○「 5S 」、「 あさひ 」の取り組みの定着、時間や提出物の締切の厳守を徹底させるため、日々の授業等で指導の充実を図る。 ○テクノボランティア等への理解を深めさせ、積極的な参加を促す。 ○部顧問との連携を図り、生徒の部活動の状況を把握し励ます。 ○登校指導及び交通安全教室を実施する。			
3 キャリア教育の充実と生徒の進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○「 国家資格・検定取得ガイドブック 」により、資格取得の奨励と指導の徹底が図られている。 ○各教科における資格取得に向けた補習等の実施により、多くの資格で合格者数が増加している。 ○「 高校生ものづくりコンテスト 」の取り組みが低調で、中国・全国大会への出場が減少している。 ○インターンシップ、企業見学、鳥工版デュアルシステムの実施により、実践的な技術・技能の育成が図られている。	○幅広い工業分野の基礎知識や技術・技能の一端を習得させ、幅広い工業分野に対応できる人材を育成する。 ○生徒一人一資格(一検定)の取得を実現させ、資格取得者数を増加させる。 ○「 5S 」は様々な活動の基礎・基盤を形づくる重要不可欠な改善活動であり、より一層、定着させる。 ○「 高校生ものづくりコンテスト 」において、上位大会へ出場させる。 ○企業との連携事業を充実させ、生徒の知識や技術・技能を育成する。	○工業の基礎・基本を総合的に習得させるため、科目「 工業技術基礎 」（共通実習）の指導の充実を図る。 ○直近の資格・検定の案内や「 国家資格・検定取得ガイドブック 」の有効活用の徹底を図る。 ○実習、課題研究、理数工学Ⅰ、理数工学探究の時間を中心に、「 5S 」の必要性を理解させ、実践できる力の育成を図る。 ○インターンシップ、企業見学、鳥工版デュアルシステム等を実施するとともに、内容の充実を図る。 ○技術指導を早期に実施することにより、技術・技能の育成を図る。			
	② 職業意識の育成と進路指導の徹底	○企業見学やインターンシップにおいて、企業と連携して指導することにより、職業観・勤労観・進路意識の高揚を図ることができている。 ○生徒の多様な進路に対応するために、面接指導を全職員で実施しているが、進路意識の高揚にいま一歩つながっていない。 ○進路LHR・進路ガイダンスは、生徒の進路選択に役立っている。 ○校外施設での鳥工「 ものづくり講演会 」は、技術者としての在り方を多く学ばせることができている。	○生徒の進路意識・職業観・勤労観をより一層高揚させるとともに、生徒の成長を支援する。 ○進路決定の実現に向けて、進路意識の高揚を促し、指導を充実させる。 ○社会人として求められる能力・態度を育成する。	○企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム等の企業と連携した事業及び資格取得のための補習の充実を図るとともに、生徒が進路情報を迅速に入手できる環境を整備する。 ○面談・面接練習のより一層の充実を図り、特に3年生に対しては、面接練習を強化する。 ○校内外の進路行事等を積極的に利用させる。 ○挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を丁寧に行う。 ○ものづくり講演会・探検隊、先輩を囲む会等を実施する。			
	③ 地域や産業界との連携強化	○インターンシップ事前指導（全体・科別の2回実施）により、目的や取り組む態度の育成が図られている。 ○インターンシップ中の「 あさひ 」について、多くの企業から概ね良好との感想をいただいている。また、意見交換、情報交換を密に行うことで、企業との連携が図られている。 ○「 ものづくり講演会 」、「 社会人講師による授業 」、「 先輩を囲む会 」等では、生徒に技術者としての在り方やプロの技を伝授していただいている。また、これらの取り組みや「 鳥工産業教育懇話会 」は、教職員の指導力向上にもつながっている。 ○「 津ノ井地域懇談会 」は、地域の方々に本校の教育方針を理解していただく場となっている。	○企業が求める人材や地域の担い手となる人材を育成する。 ○地域や小学校、中学校等へ積極的に情報発信し、鳥工の教育について、理解を深めてもらう。 ○地域と連携した貢献活動を行う。 ○保護者との連携を密にし、生徒の指導・支援を充実させる。	○インターンシップや鳥工版デュアルシステム、社会人講師等の事業を実施し、産業界との連携をより一層深める。 ○HPの活用や出前授業、科学広場等の実施により、鳥工を広くPRしていく。 ○「 高校生マナーアップさわやか運動 」や「 テクノボランティア 」、「 津ノ井地域文化祭 」、「 技能祭 」等へ参加し、地域との連携を強化する。 ○科別PTAや鳥工テック、津ノ井地域懇談会などを開催し、保護者や地域との連携を強化する。			

注） 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躾　あさひ：挨拶・作法・人の話を聞く

評価基準　A：十分達成 ［100%］　B：概ね達成 ［80%程度］　C：変化の兆し ［60%程度］　D：まだ不十分 「40%程度］　E：目標・方策の見直し ［20%程度］